第２２回　松本市長と車座集会「みんなの尼活皆議」

＜　ターゲット型　市内高校生や読み聞かせボランティア団体など図書館利用者のみなさまと　＞

～みんなで考える、これからの図書館～

対話録概要

と　　き	令和８年４月１９日（日）　　午後１時３０分から午後３時３０分まで
と　こ　ろ	中央図書館　セミナー室
出　席　者	参加者　１４人、市長ほか関係者　６人　　計２０人
トークテーマ	①　どんな図書館なら行きたくなるか ②　今の図書館に足りないと感じることは

【市長のあいさつ】

車座集会は今回で第22回目の開催となる。本日は高校生、読み聞かせボランティアや図書に関するイベントへの参加者など様々な立場の方に参加してもらっている。

市内には２つの図書館、８つの配本所図書室があるが、どうしてもそうした拠点にアクセスしにくい地域があることや蔵書冊数等も近隣自治体、類似他都市と比較して相対的に低い水準にあることなど、読書環境の充実に向けては課題があると感じている。本日の意見交換の内容も踏まえ、今後の図書館行政の充実に繋げていきたい。

【意見交換】

テーマ①　どんな図書館なら行きたくなるか

〈参加者〉多様な利用者ニーズに対応しつつ、世代に関わらず利用できる図書館が理想である。例えば、純粋に本を読みたい人もいれば自習するための空間や癒しの空間が欲しい人など利用目的は様々であるし、児童を連れた親や学生、高齢者など幅広い世代に親しまれる図書館が望ましい。現在の図書館は老朽化もあって、理想の図書館とは言い難いし、トイレなども暗い。図書を借りて返すだけに留まるのではなく、緑に囲まれて本を読めるテラスを設置するなど居心地の良い図書館であれば嬉しい。

〈市長〉読書、学習、憩いなど多様なニーズに対応できるような空間を設けることが出来れば良いと思う。比較的最近オープンした他都市の図書館を視察する機会があり、その図書館内の一部は敢えて洞窟のような読書に没頭できる空間や読書テラスなどの明るい空間もあり、また館内のレイアウトも魅力的であった。照明や空間、動線などの工夫による素敵な空間づくりは大事である。中央図書館、北図書館ともにリニューアルをしていくため、参考にさせてもらいたい。

〈参加者〉色んな自治体の図書館に行くが、図書カードに自治体の個性が出る。尼崎も個性的な図書カードにリニューアルを検討してはどうか。また、尼崎では最大15冊の本を２週間借りられるが、３週間借りられる自治体もある。読み聞かせボランティア団体の活動では、比較的多く本を長期間にわたって借りられる方が助かるため、運用改善について検討をお願いしたい。

〈参加者〉尼崎で人気のある図書を予約した際、100件以上の貸出待ちが生じていたときがあった。人気の図書は多めに調達するなど借りたい本が早く借りられるような工夫をお願いしたい。

〈中央図書館長〉最大貸出冊数と期間は他都市の状況なども参考にしながら、これまでから増やし、延ばしてきた経緯がある。一方で、貸出期間を２週間以上とした場合、人気図書の待ち件数が更に増えることも懸念される。いずれにしても、今の冊数や期間に拘るのではなく必要に応じて最適化していければと思う。

〈市長〉本日は高校生にも来てもらっている。高校生年代が本を読む際、電子媒体か紙媒体かどちらが多いか教えてもらいたい。

〈参加者〉電子媒体は読みづらいこともあり、紙が多い。また図書を借りる習慣がなくなり、購入する方が多い傾向である。自分は学生であるが、若年層の中央図書館の認知度はそれほど高くないと思う。学生など若い世代にも親しまれる図書館であるためには、例えば、若者の間で流行っている性格診断（MBTI診断）が出来る機能を図書館内に備えておき、その診断結果別にお勧めの本が提示されるようにするなど仕掛けが必要であると思う。

〈参加者〉中央図書館に備え付けの椅子のサイズについて、子どもから大人へと体格が発育する小学校高学年から中学生年代にある生徒には使いづらい。そういった世代にも居心地の良い図書環境となれば良い。

〈参加者〉市立学校においては通常の子どもたちが過ごすクラスと図書室が離れていることが多い。子どもたちが本に親しむ機会を増やすためにもクラスの近くに図書室があれば良いと思う。子どもたちの中には市立図書館で本を借りることが有料であると思っている子もおり、図書離れが進んでいる気がするため、学校の社会見学で市立図書館に行ってみてはどうか。比較的若い年齢で本を借りて、活字を読む習慣を作ることは、以降の学習面にも良い影響が出て来ると思う。

テーマ②　今の図書館に足りないと感じることは

〈参加者〉尼崎市は人口が約45万人と多い割に図書館が２つしかなく少ないと感じている。自分は塚口に住んでいるが、中央図書館も北図書館も遠く、市外の図書館を利用することが多い。読書が出来る拠点を増やすことなどはできないか。

〈市長〉塚口周辺はマンション開発等により住民が増加傾向にある地域であるが、図書館や配本所図書室が遠いことは認識している。今後、上坂部西公園内の緑の相談所をリニューアルする際には、規模は小さくなるかもしれないが、図書機能を備えた施設にしていくことなど検討していきたい。また、季節や行事にあわせて特集コーナーやポップを作ったりする図書館司書がいるのといないのとでは、大きく違ってくる。拠点の増に併せて、図書館や配本所図書室の質も上げていくことが必要であると認識している。また、旧聖トマス大学跡に、尼崎市立ユース交流センター（アマブラリ）内にも図書室があるものの、認知度が低いと感じている。アマブラリは愛称であるが図書機能がある点が認知されにくい。

〈参加者〉学校の図書室を市民向けに開放するなど有効活用できないか。

〈市長〉今後建替えを予定している下坂部小学校においては、市民も利用できる学校図書室にしていきたいと考えている。ただ、学校図書館と市民図書館はそれぞれ目的が違う部分もあることと、市民利用と図書室における学校での授業を両立させるためには一定の整理が必要である。ただ、指摘のとおり学校図書室の市民利用が叶えば市内の読書環境充実に繋がっていくものと認識している。

〈市長〉中央図書館も北図書館も老朽化が著しく、利用者には迷惑をかけていると思っているが、現図書館の設備面等で思うことがあれば聞かせて欲しい。
〈参加者〉朝から昼過ぎまで利用する場合がある一方、中央図書館近辺は飲食店が多くないため、館内に飲食が出来るスペースがあれば良い。
〈参加者〉中央図書館は駅からも遠いため車で来館する機会が多いが隣接する駐車場は有料であり、くつろぐのではなく急いで出ることが多い。
〈参加者〉高齢になってくると図書館には通いづらくなるため、本の宅配や移動図書などがあればと思う。また、図書館の返却ボックスはアクセスの良い場所にあれば良いことと、利用者向けのエレベーターもあれば良い。高齢者にも利用しやすい図書館であって欲しい。また配架コーナーにも椅子とテーブルを備え、本を開いて少しの時間読めるスペースがあると嬉しい。
〈市長〉中央図書館は２階に入口がある点は不便であると思っている。リニューアル等を機に不便さを解消していきたい。

〈参加者〉人気のある図書の冊数を増やし、借りやすくなれば嬉しい。
〈市長〉公立図書館は人気のある図書の配架のみならず、郷土資料、記録、新聞・雑誌などを体系的に収集・保存し、次世代へ継承する役割を有しており、選書や限られたスペースでの図書の配架は難しい側面がある。
〈参加者〉読み聞かせボランティアとして、大型の絵本を使用する機会が多くあるが、中央図書館か北図書館まで借りに来ないといけない。配本所図書室でも大型絵本の貸出を可能にするなど利便性向上を図ってもらいたい。

〈参加者〉ＳＮＳをうまく利用しながら読書や図書館の魅力を発信してはどうか。紙媒体のチラシなどは見る機会が少なくなり、スマートフォンから情報を得る人が多い。図書館司書の１日に密着したショート動画や現施設の老朽化を逆にアピールするなど、話題性を呼ぶことができればおもしろいかもしれない。
〈市長〉ＳＮＳは積極的に活用すべきと考えている。チラシなどは手に取ってもらう機会が少ないのは事実であり、工夫しながら情報発信をしていきたい。

【おわりに】

尼崎の図書館行政はまだまだ改善の余地がある。各施設の設備面の問題点はもとより、市域内の人口バランスが大きく変わっている中での図書館配置の問題、蔵書の問題など課題は多岐に渡る。

政策は、漆を重ね塗るように、一層ずつ積み重ねるほかなく、一足飛びに充実するわけではないが、これからの尼崎の価値向上のために図書館行政は必要不可欠な分野である。図書館の移転・リニューアルを契機に図書館行政の基礎基盤を充実していきたいと思っている。本日いただいた意見は今後の政策に反映していきたい。ありがとうございました。

以　上